

第4章 48時間講習のデジタル対応に係る まとめ

第4章 48時間講習のデジタル対応に係るまとめ

第1節 現状と今後について

1-1 48時間講習の現状と課題と対応

講習の現状と課題と解決するための対応をまとめると以下のとおりとなる。

【48時間講習の現状】

- ・ 講習の実施には1科目につき1名以上は必要（概ね8～9名で担当）
- ・ 講師は主に都道府県の能開施設が担当

【48時間講習の課題】

- ・ 講師の選定、確保（高齢化等により人材が不足している）

【解決策】

- ・ 他県で実績のある講師による応援
- ・ 県をまたいだ同時開催を行う

これらの解決策を行ううえで効果的な手段としてオンラインの実施が挙げられ、例えば同時双方向ライブ配信、オンデマンド化といった方法が考えられる。その場合、例として次に示すような環境が必要となる。

表 4-1 講習会場に必要な環境-同時双方向型（ライブ配信型）

講習会場に必要な環境（会場同士をつなぐ場合は会場分のセットが必要）	
ネットワーク環境	高速・安定したインターネット回線（有線LAN推奨）、無線LAN（Wi-Fi）は予備として整備
映像・音声機器	カメラ：講師用（固定）＋会場全体用（広角） マイク：講師用（ピンマイクまたはヘッドセット）、質疑応答用（ハンドマイク） スピーカー：会場内でオンライン参加者の音声を再生 モニタ：講師用、受講者用（資料・配信画面）
配信機材	PCまたは配信専用端末：Zoom、Microsoft Teamsなどの配信ソフト対応 スイッチャー（複数カメラ切替が必要な場合） オーディオインターフェース（音声品質向上）
提示用デジタル教材	48時間講習用補助教材、ナレーション動画
受講者管理システム	※運営側の職員を配置しない場合

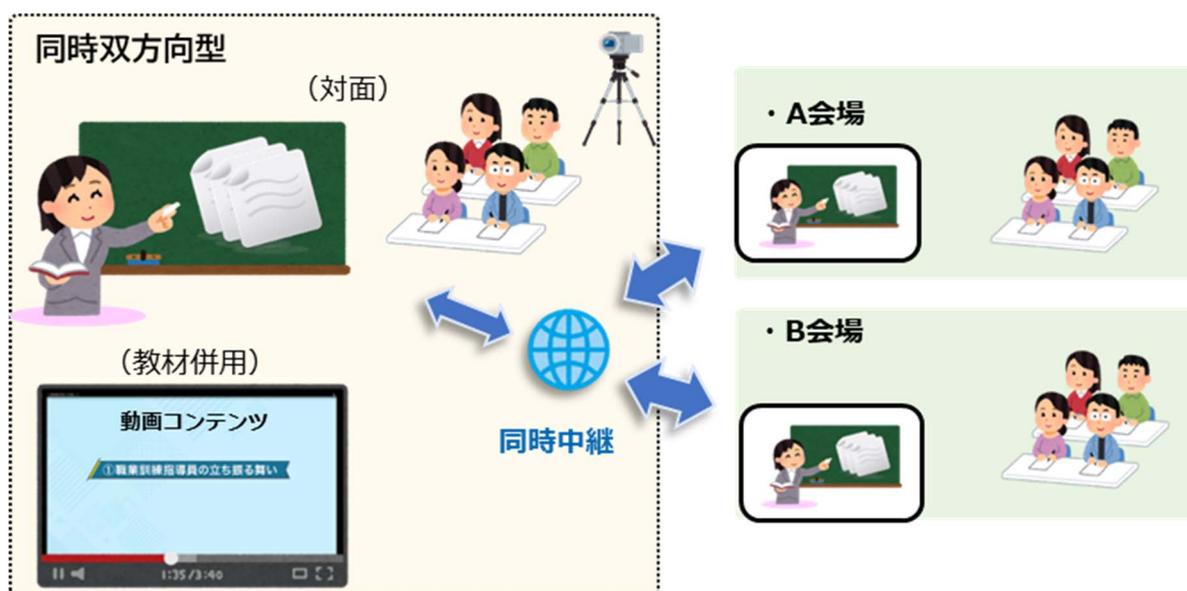


図 4-1 同時双方向型（ライブ配信型）実施イメージ図

表4-2 受講者及び講師・運営側に必要な環境-オンデマンド型

受講者側に必要な環境
PCまたはタブレット
インターネット接続環境
eラーニングシステムへのアクセス
Moodleなど
教材閲覧環境
動画再生、PDF閲覧、文書作成及び表計算ソフト課題対応
課題提出・テスト受験環境
ファイルアップロード、フォーム入力など
講師・運営側に必要な環境
動画教材の制作環境
撮影機材（カメラ・マイク）、編集ソフト（Premiere Proなど）
eラーニングプラットフォーム
コンテンツ管理、進捗管理、テスト機能
受講者対応体制
質問受付、フォーラム、メール対応など
受講者管理システム

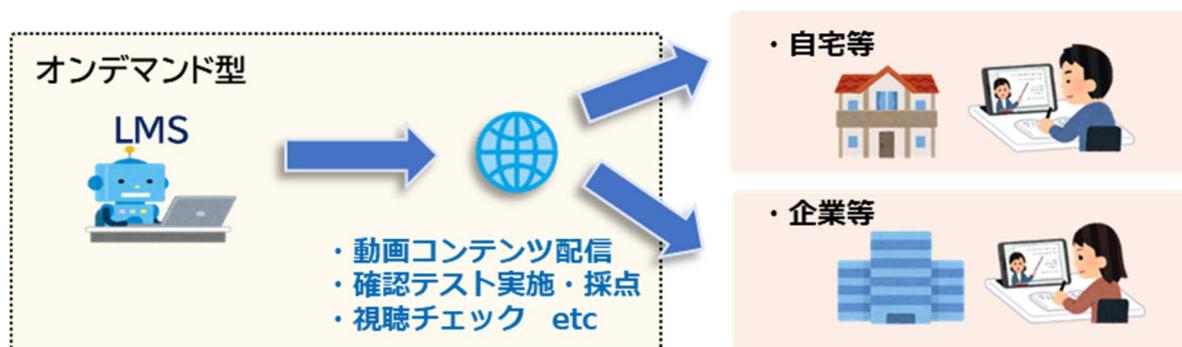


図4-2 オンデマンド型実施イメージ図

1-2 オンライン実施の課題と想定される対応等

オンラインで実施する際の課題とその課題を解決するため想定される対応をまとめると表4-3のとおりとなる。

本テーマにおいて48時間講習用補助教材と職業訓練指導マスタープログラムを開発したことにより、表4-3にあるコンテンツの不足に対応することができた。

表4-3 オンライン実施の課題と想定される対応

オンライン実施の課題	想定される対応
運営上の課題 (受講状況の確認や確認テストの公正な実施)	実施方法の確立(職員の配置、システム導入など)、事例の共有
環境面の課題 (会場の確保が困難、機器の整備が困難)	オンラインによる県をまたいだ講義やオンデマンド化は一つの解決方法であるが、実施主体をどうするか等、ルールの明確化が必要
人材・知識面の課題 (実施方法がわからない、オンライン化が進められる人材がいない)	人材育成(研修等を整備する、事例を共有)により「わからない」、「進められない」を解消
心理的要因 (オンラインの実施は大変そう、抵抗感がある、セキュリティに対する不安)	事例の共有により不安や抵抗感を軽減
コンテンツの不足 (講習の質を担保するため統一した教材や動画などのコンテンツがない)	48時間講習用補助教材、職業訓練指導マスタープログラムの活用

1-3 48時間講習のデジタル対応に係るまとめ

2年間の取組みによって1年目に補助教材、2年目に動画教材を開発した。これらはオンラインで実施するだけでなく従来の実施方式でも活用が可能であり、コンテンツの不足等の課題解決に寄与できるものである。ここで2つの教材の活用によって期待できる効果を挙げる。

【受講者の理解促進】

- ・ 視覚的、具体的な情報を付与することで受講者の理解度を向上できる。

【教科書の補完・多様化】

- ・ 教科書だけでは不足しがちな事例等を題材とした動画により学習効果の向上が期待できる。

【講義の活性化・集中力維持】

- ・ 動画で講義に変化を与えることで受講者の集中力を維持できる。

【講師の負担軽減・均一化】

- ・ 教材により講師の準備の負担を軽減でき、講義内容も均一化できる。

【講師依頼の最適化と講師間の引継ぎの円滑化】

- ・ 教材の提供により依頼内容が明確化され、複数名の講師で担当する場合であっても講師間のスムーズな引継ぎが可能である。

【オンライン対応】

- ・ 教材によりオンラインで実施する場合であっても教科書を使用しながら講義を行うことができる。

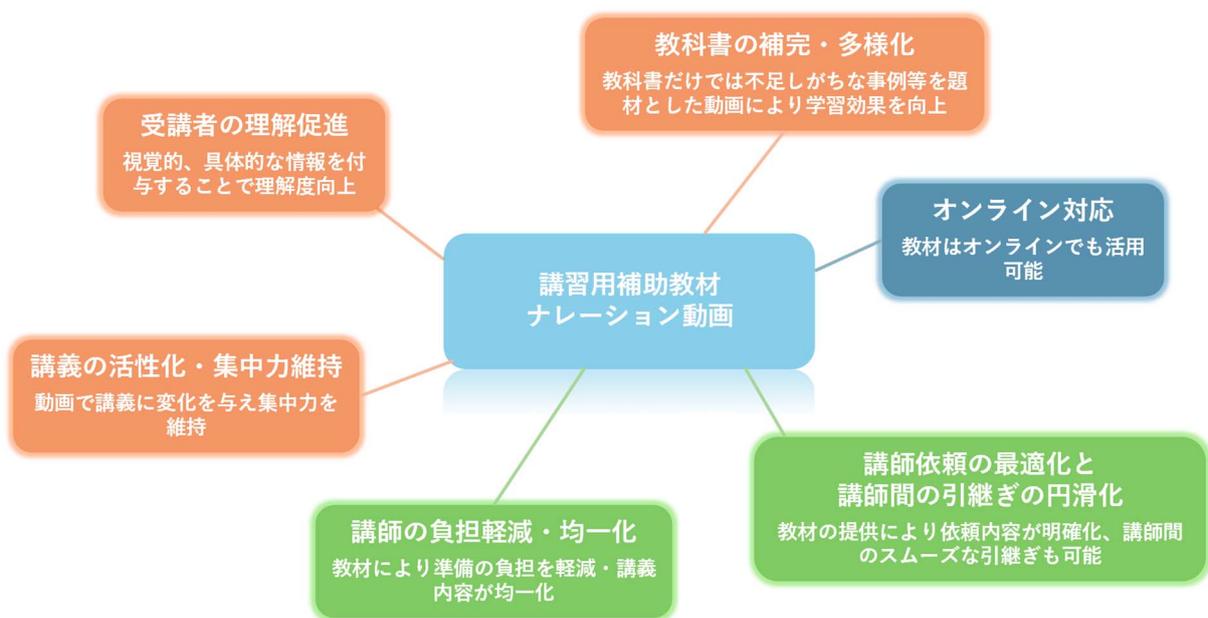


図4-3 教材活用のポイント

また、前章に示したアンケート結果や本テーマの2年間の取組を踏まえ、教材の活用やオンライン化に向けた実施に係る課題、オンライン化を推進するための今後の方向性について委員から以下の意見が挙げられた。

【講習実施に係る課題】

- ・教材活用により講師の準備負担軽減や講習の均一化が進む一方、既存の自作教材を好む講師も存在。
- ・投影のみの教材使用では後方席の視認性に課題。
- ・オンライン化推進にあたり、通信環境の確保、出席管理、講師の心理的抵抗感が主な課題。
- ・オンライン講習の実施には、会場の通信環境確保や受講者の出席確認方法の整備が必要。
- ・オンデマンド形式の導入は出席管理やテスト実施の面で課題が大きい。

【今後の方向性に係る意見】

- ・動画教材や副教材を活用しつつ、オンライン講習の実施に向けた環境整備を段階的に進める必要がある。
- ・通信環境の整備、出席管理システムの導入、講師の研修や心理的抵抗感の軽減が重要である。
- ・オンデマンド形式の導入は慎重に検討し、まずはリアルタイム配信やハイブリッド形式の試行から開始するとよい。
- ・県をまたいだオンライン講習の可能性も視野に入れ、厚生労働省に今後の進め方について相談しながら実施方法の可能性を検討。
- ・教材の標準化と講習内容の均一化を図り、指導員不足の解消に寄与することを目指すべきである。
- ・指導員免許取得の48時間講習は暫定的措置であり、制度全体の見直しも検討課題である。

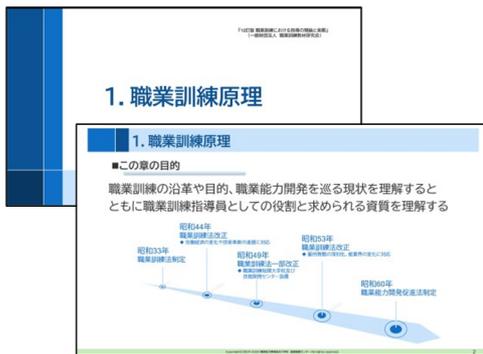
なお、各教材をより効果的に活用いただくため、教材の特徴や使い方をわかりやすく紹介する広報用リーフレットを作成した。補助教材については、教材の構成や主な使用場面に加えて、デジタル教材の活用には慎重な講師や自作教材を中心に講義を行っている講師などを対象に、補助教材を導入することで期待できる効果を整理し、初めて教材に触れる方にも理解しやすい内容とした。また、動画教材については、教材の構成やラインナップに加え、職業訓練指導員を目指す方、指導経験の浅い方、企業の人材育成に関わる方など、視聴対象が明確に伝わるよう、視聴することで期待できる効果をまとめた。本リーフレットを通じて、教材の利便性や活用効果を明確に伝え、現場でのさらなる普及と活用促進を図っていく。

すぐに使える、講義を支える！ 職業訓練指導員講習用補助教材

教科書の理解促進、講義準備の時短を1つで実現！

① 提示用教材

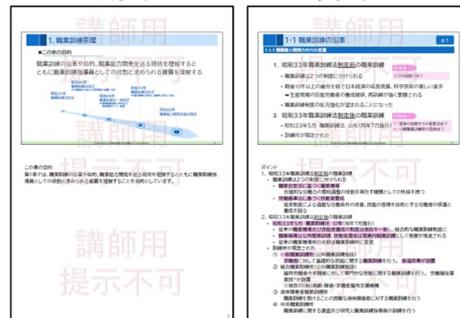
～教科書での講義を強力にサポート～



■ 主な使用場面
プロジェクタやモニタにスライドを提示し、教科書と併用することで、学習ポイントや到達目標が明確になります。

② 講師用指導書

～説明漏れを防ぎ、講義の流れをつかめる
講師向けサポート資料～



■ 主な使用場面
講義の準備の際に確認することで、教科書のポイントを事前に把握することができます。講義の説明漏れがないか、チェックシートとしても活用ができます。

■ 対象者別 おすすめポイント

■ デジタル教材の活用に慎重な講師の方へ



教科書との併用容易：補助教材は教科書と組み合わせやすく、従来の講義スタイルを崩さず導入可能です。
操作のシンプルさ：操作が簡単で迷わず使えます。
授業準備時間の削減：教材は学習ポイントが整理済みで、準備負担を大幅に軽減します。

■ 自作教材を中心に講義を行っている講師の方へ



指導内容の標準化：補助教材を使うことで内容のばらつきを減らし、標準的な講義の構成を維持できます。
ハイブリッドな展開：補助教材で重要ポイントを提示し、自作教材で事例説明や実践活動を深掘りできます。
講師間の共有と引き継ぎ：統一したスライドのため講師間の共有が容易となり、複数体制での運営が円滑になります。

■ 新任講師の方へ



講義設計の道しるべ：補助教材は講義の流れや構成を整理し新任講師の理解を助けます。
効率的な講義準備：講師用指導書は説明ポイントを明確にし、準備時間を短縮し不安を軽減します。
理解促進：スライド提示で教科書の説明箇所が受講者に伝わり、スムーズな講習運営を実現します。

■ 教材の入手先

都道府県職業能力開発主管課または都道府県職業能力開発協会に提供済のデータをご活用ください。

お問合せ先
職業能力開発総合大学校基盤整備センター 開発部
高度技能者養成訓練開発室
E-mail：support[]tetras.uitec.jeed.go.jp
※[]は@に置き換えて下さい。
TEL：00-0000-0000

図4-4 広報用リーフレット（補助教材）

経験豊富な指導員のノウハウをあなたの指導に。 職業訓練指導マスタープログラム

経験者の指導事例・経験談を動画でわかりやすく学べる！

①ナレーション動画

～実践で使えるエッセンスをまとめた
動画教材～



- ・指導事例・経験談をわかりやすく説明
- ・情報過多を避け、伝えたいことを明確化

②ポイント解説資料

～振り返りに使えるポイント解説資料～



- ・重要ポイントを整理
- ・視聴後の振り返りに最適



マスタープログラムはこんな方におすすめです！

- **これから職業訓練指導員を目指す方**
 - ・現場での指導のイメージがつかめます。
- **指導に携わり始めたばかりの方**
 - ・経験者の判断・工夫を学べ、指導の安定につながります。
- **企業内で人材育成に関わる方**
 - ・OJTや研修設計の参考となる実践的事例を短時間で学べます。
- **48時間講習の担当講師**
 - ・講義の変化付けに活用することで受講者の集中を維持できます。

■ラインナップ（各10分程度）

- # 1 職業訓練指導員の立ち振る舞い
- # 2 社内外での職業訓練の組み立て方
- # 3 職業訓練のPDCA
- # 4 指導方法の実際
- # 5 指導方法アラカルト
- # 6 実践的な訓練評価について
- # 7 訓練生との接し方
- # 8 訓練生のメンタルヘルスケア
- # 9 訓練生の意識とコミュニケーション

■教材の入手先

職業能力開発総合大学校基盤整備センター
教材提供ページ
2次元コード

お問合せ先
職業能力開発総合大学校基盤整備センター 開発部
高度技能者養成訓練開発室
E-mail : support[]tetras.uitec.jeed.go.jp
※[]は@に置き換えて下さい。
TEL : 00-0000-0000

図 4-5 広報用リーフレット（動画教材）

最後に、本テーマにおいて開発した48時間講習用補助教材は、講師の準備の負担軽減に寄与し、さらには指導ポイントの明確化、指導方法の標準化といった講習内容の均一化や質の担保につながると思料される。

また、職業訓練指導マスタープログラムは、基盤整備センターのホームページを通じて公開し、これから職業訓練指導員を目指す方、すでに指導に携わり始めた方、さらには企業内で人材育成や人材開発に関わる方々、48時間講習の担当講師にとって、職業訓練指導員として蓄積してきた経験者の指導事例・経験談を得られる貴重なコンテンツとしてご活用していただければ幸いです。



図4-6 ホームページ掲載イメージ

